

マレーシア編

## 都市での生活に欠かせないGrabは便利



緑の車体のGrabカー。右は待機する「Grabフード」のオートバイ。

日本にはない配車アプリ「Grab(Grab)」。マレーシア生まれのGrabは、近年利用者数を増し、さまざまなサービスを展開しています。

Grabはドライバーの空き時間に、使っていない自家用車で客を目的地に運んでくれるサービス。公共交通機関の不足やタクシー運賃よりも割安であるため、人気なのです。Grab発表の数字ではマレーシアのみで延べ利用者数は1,100万人超。マレーシアにいる日本人も多く利用しています。

利用するときはアプリで乗車場所と目的地を指定するだけ。乗車場所付近にいるドライバーがいれば、ピックアップしてくれて目的地につれて行ってくれます。

金額は目的地を指定したときに表示されますが、同じルートを毎日利用しても渋滞時などは割増に。Grab独自の計算方法で割り出されています。タクシーは事前に運賃がわからないのでボラれる場合もありますが、Grabではそういったことはありません。

また、タクシーは汚い車内に閉口することがありますが、Grabでは製造5年以上の車の登録は禁止されており、きれいな車が多い。運賃の支払いは現金だけでなく、独自の電子マネー方式でも支払いできます。

目的地に到着するとアプリでは利用者がドライバーを評価する画面が表示されます。ユニークなのがドライバーも利用者を評価するシステムがあること。文句が多いなど「低評価な利用者」になってしまうと利用時になかなか拾ってくれないということも起きます。

また、最近はやりなのはGrabによる食事のデリバリー。「Grabフード」に登録したレストランの食べ物をアプリで注文すると、専属オートバイドライバーが30分ほどで届けてくれます。さらに、Grab独自の宅急便サービス(重量10キロ以下の小包のみ)も好評です。

Grabは東南アジア8カ国で展開し、インドネシアやベトナム、タイなどではオートバイタクシー、カンボジアではトゥクトゥクの配車サービスもやっています。いずれも金額が事前にわかるので、初めて利用するときも安心です。